

☆☆令和7年度文化祭用 Instagram 開設決定☆☆

令和7年度の文化祭に向けて、生徒会本部役員が新たな企画を立ち上げました。それは、『文化祭用の Instagram の開設』です。今回この企画を立ち上げたのは生徒会長の腰高紗依さん（2年）、生徒会監査の新井稀唯さん（1年）です。2人は他校の Instagram を見て、「生徒の生き生きした様子が生徒目線で表されている」と感動し、『2年連続開催が決定した楠祭』のために活用し、前南生の魅力や頑張っている姿をもっと発信したいという思いから今回の企画に向けて動き出しました！二人のこれまでの奮闘している姿やプレゼンテーションの様子を紹介していきます！<生徒会顧問 原澤 正樹>

1. 管理職の先生方・生徒指導部の先生方へのプレゼンテーション



管理職の先生方へのプレゼンテーション



生徒指導部の先生方へのプレゼンテーション

11月上旬頃から腰高さんと新井さんは前南での Instagram を開設するために、はじめに『他校の Instagram の運用方法』について調べました。生徒会顧問を通じて、いくつかの学校に運用方法やルールについて問い合わせを行い、伺った情報をまとめていきました。まとめた情報を整理し、前南で運用するためのルールを決めていきました。こうしてまとめたものを管理職の先生方や生徒指導部の先生方にプレゼンテーションを行いました。先生方にプレゼンテーションをした後に、さまざまなアドバイスをいただくことができました。Instagram は SNS の一種であり、不特定多数が見ることができると、細心の注意を払う必要があります。先生方からは個人情報の取り扱いについての注意すべきこと、例えば、「生徒の顔写真をそのままアップすることは危険ではないのか」というご指摘や、「文化祭で生徒のダンスを流す場合、音楽の著作権はどうなっているのか」、「生徒たちに害のあるコメント等にはどのように対処するのか」などといった問題点が出てきました。管理職の先生方や生徒指導部の先生方にプレゼンテーションを通して、二人は自分たちだけでは気付くことができない『新しい視点』に気付く良いきっかけとなりました。

2. Instagram 開設に向けての修正

生徒作成スライド①

1. iPadで運営
→生徒会費で購入予定のiPadを使用。iPadにはinstagramとモザイクをするための加工アプリのみ入れる。学校のWI-FIのみに接続し、学校でしか使えないようにする。生徒会顧問に保管してもらう。

2. 今回のinstagramは令和7年度の楠祭が終了した1週間後に運営終了
→引き継ぎ必要なし。残ったアカウントはログアウトをする
☆なぜ1週間後か 落とし物の呼びかけや楠祭当日の様子も後日投稿したいため

3. 載せる写真や動画
: **顔を載せてほしくない人がいるため必ずモザイクをかける。**
モザイクをしていないもの、名前など個人を特定できるものは載せない（トラブルを避けるため。）

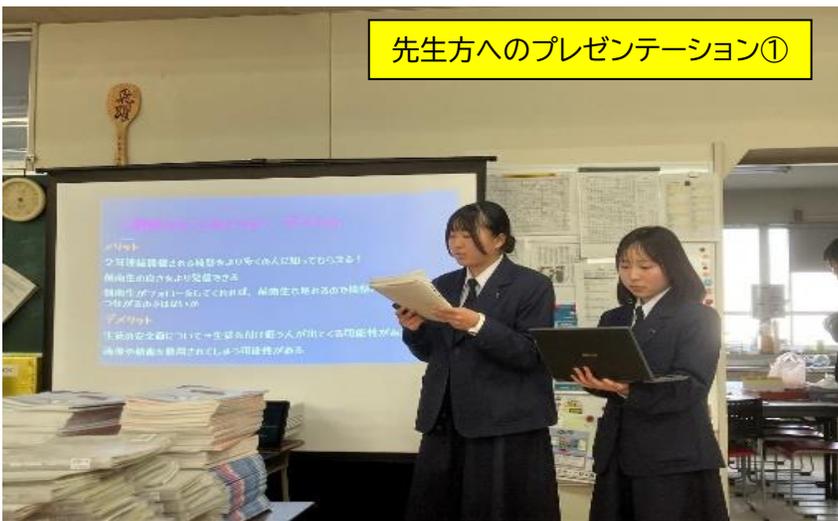
生徒作成スライド②

4. 投稿する流れ
・生徒会が写真や動画、原稿の作成
↓
・**生徒指導主事、生徒会顧問の確認を必ずもらう。**
→生徒会顧問：原澤先生、生徒指導主事：安田先生には了承済み
↓
・生徒会が専用のiPadで投稿
⚠ **管理職の方々への許可、確認はなし→了承は得ています**

5. ストーリーの使用について
リアルタイムを発信できるストーリーは**楠祭前日、当日のみ**使用
→前日だけでも準備を頑張っている前南生の姿を見せたい！
→当日はバンドやダンス、文化部の発表などリアルタイムで行っていること（～時からバンドの発表）を伝えることができる。観客数がより増えるのでは!?

管理職の先生方や生徒指導部の先生方のご指摘を受け、二人は改めてルールや運用方法について考え直しました。高校生にとって SNS は身近なものであるが、その危険性もあることを再確認し、「生徒の顔には個人を特定されないようにモザイクをかけ、投稿すること」を決めました。また、生徒のスマホで写真を投稿するのではなく、「生徒会で購入した iPad で Instagram を運用する」や「ダンスなどで使っている音楽は、Instagram で運用許可されている音楽に置き替える」など、先生方のアドバイスに基づき、問題を解決するために、新しくルールを付け加えていきました。二人は新しくスライドを作り直しながら、**聞く人にも要点を簡潔に分かりやすく伝えること**に焦点を当て、次に向けてのプレゼンテーションの準備を進めていきました。

3. 全職員へのプレゼンテーション



先生方へのプレゼンテーション①



先生方へのプレゼンテーション②

修正したものを管理職の先生方に再度チェックしていただいた後、1月8日（水）に職員室にて先生方にプレゼンテーションを行いました。昼休みの限られた時間の中で、『令和7年度の文化祭用のInstagramの開設』について、要点を絞りながら説明を行いました。腰高さんは「アイスクリームの自販機導入」の時に、全職員へのプレゼンテーションを経験していましたが、新井さんにとっては初めての経験であり、非常に緊張しているようでした。しかし、二人とも「前南の文化祭を盛り上げていきたい」という思いからスタートした企画であり、熱い気持ちで、先生方に来年度の文化祭でのInstagramを活用する重要性や安全性を伝えていきました。いくつかの質問をいただきましたが、先生方から反対の声はなく無事終了することができました。この取組を通して、アイスクリームの自動販売機同様、生徒たちは「導入した後に起こるかもしれない問題に対応する方法」を考える必要があることが分かったと思います。また生徒会顧問として、生徒たちの問題解決能力が高まったこと、そして何か新しいことにチャレンジする姿はいつ見ても心打たれるものであり、最初の一步を踏み出した人は本当に「カッコいい」と率直に感じています。今後もさまざまな壁にぶつかるとは思いますが、ともに乗り越えていきましょう！<生徒会顧問 原澤正樹>



プレゼンテーション終了後、質問&アドバイスを受けている様子

4. Instagramの開設に向けて取り組んだ生徒会の二人のコメント

自分の発言に責任を持つということの大変さを実感できるとても良い経験でした。「Instagramを運営したい」と提案をただけでは何も始まらないからこそ、行動を起こさなければいけないけれど、どう行動すれば良いか分からなくなることが多くありました。そんな時に助けて下さる方々が沢山いたため、本当に心強かったことを記憶しています。自分の発言を支えてくれる人達に出会えたことは私にとってかけがえのないものだと再認識することが出来ました。Instagram運営決定がゴールではありません。これから、楠祭を盛り上げる一助になるよう運営を頑張っていきます！是非Instagram見てください！！<生徒会長 腰高紗依（2年）>

Instagram運営が決定するまで沢山の過程がありました。最初は「Instagramを運営したい」という発想だけでしたが、沢山の方々からアドバイスをいただくことで新しい視点が生まれ、改善点を見つけることができました。改善を重ねるうちに発想が具体化し、形あるものに変化していくのを実感でき嬉しかったです。沢山の視点を教えてくれた先生方には本当に感謝しています。そしてInstagram運営に向けて先導してくれた先輩の活躍を近くで見ることができ、いい経験になりました。最後に、これからの運営が私達の本番なので楠祭を盛り上げる発信ができるよう工夫して活用していきたいです。是非ご覧になって下さい(^^)<生徒会監査 新井 稀唯（1年）>

★教頭より★ Instagram等のSNSに『生徒の輝いている笑顔』を掲載したいのはヤマヤマですが、ネットの世界にはさまざまな危険性があり、生徒をその危険にさらすわけにはいかない、というのが最大のジレンマです。個人の顔や名前は『個人情報』であり、その扱いには細心の注意が必要なのです。それを生徒会のお二人によく理解していただき、その対応策を何度も何度も練り直していただきました。私の目からも『完璧だ！』と感じた状態で、全職員の前でプレゼンをしていただいたのですが、さまざまな意見やご助言をいただきました。そしてさらに練り上げ、2/3月の職員会議で『議決』され、校長先生から『許可』をいただくことができました！本校のグラデュエーションポリシーのキャッチフレーズに『もう、誰のせいにもしない！』『困難に負けない自分になる！』とありますが、みごとにねばり強く取り組み、ここまでくることができました！生徒会長が言っているように『今からがスタート！』です！みなさん、Instagramをよろしくお祈いします！教頭 星野 亨

★校長より★ 今回、生徒が中心となり「Instagramの開設」に動いてくれました。ありがとうございます。上記の記事から二人は決定までに【①課題の設定】、【②情報の収集】、【③整理、分析】、【④まとめ・表現】、【⑤振り返り・考えの更新】というサイクルを少なくとも二回以上回していることが分かります。管理職へのプレゼンまでが第一回目のサイクル、職員へのプレゼンまでが二回目のサイクルです。現在、1・2年生では課題解決型の探究活動に取り組んでいます。この活動は上の①～⑤に沿った活動になります。上記の記事で紹介されている活動はとても参考になるとは思います。各自で、この記事进行分析してみてください。今回のInstagramは実現できますが、いつでも実現にたどり着くわけではありません。しかし、①～⑤の活動を行うことが、これからの時代を生きる高校生にとって、とても必要なことなのです。頑張ってください。校長 原 拓史